

〈2026年度〉

授業要項

科 目	人間関係論 I	学科名	介護福祉	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位(15 コマ)
教 員	柳澤 玉枝	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規)				
参考書	介護福祉士養成テキスト「人間の理解と自立」(建帛社)				
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・試験による総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	人間の尊厳や人権・権利擁護について学び、尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解する。				
留意点	自分の考えをきちんと持てるように、また他者の話や意見に耳を傾けられるように努力する。				
授業外に必要な学習内容	教科書を中心に学習。 日常生活、実習を通して教養や倫理的態度を学ぶ。				
授業内容	介護福祉士としての勤務経験を踏まえ、介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基礎となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性をつくる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 人間の尊厳と利用者主体	教科書 シラバス
2	人絹思想の潮流とその具現化	教科書 プリント
3	人権や尊厳に関する諸規定	教科書 プリント
4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 1	教科書 プリント
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 2	教科書 プリント
6	人権尊重と権利擁護	教科書 プリント
7	人間の尊厳と人権・福祉理念のまとめ	教科書 プリント
8	自立の概念の多様性	教科書 プリント
9	利用者の主体性を大切にしたい声掛けを考える	教科書 プリント
10	自立とは	教科書 プリント
11	介護を必要とする人の自立と自立支援	教科書 プリント
12	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援	教科書 プリント
13	自立支援の実際	教科書 プリント
14	まとめ・振り返り	教科書 プリント
15	前期試験	

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	人間関係論Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	中居 時子	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	最新 第2版 介護福祉士養成講座 人間の理解Ⅰ(中央法規)				
参考書	介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規) コミュニケーション技術(中央法規)				
成績評価	定期試験、出席状況、ワークシートの提出物				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による				
到達目標	対人関係を形成する為のコミュニケーションの基礎を理解し、基本的態度や援助関係の原則を身に付け、組織内で求められているコミュニケーションを図ることができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士としての介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下の内容について教授する。 ①人間と人間関係 ②対人関係におけるコミュニケーション ③対人援助関係とコミュニケーション ④組織におけるコミュニケーション				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第2章 人間関係とコミュニケーション 1、人間の誕生と介護関係 2、自分と他者の理解	教科書 資料
2	3、発達心理学からみた人間関係	教科書 資料
3	4、社会心理学からみた人間関係	教科書 資料
4	5、人間関係とストレス	教科書
5	第2節 人間関係におけるコミュニケーション 1、コミュニケーションの概念	教科書
6	2、コミュニケーションの基本構造	教科書 演習
7	3、コミュニケーションの手段	教科書
8	第3節 対人関係とコミュニケーション 1、対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	教科書 演習
9	2、対人援助における基本的態度	教科書
10		教科書 演習
11	3、パისტックの7原則	教科書 演習
12	第4節 組織におけるコミュニケーション 1、組織の条件とコミュニケーションの特徴	教科書
13	2、組織における情報の流れ 3、組織において求められるコミュニケーション	教科書 演習
14	定期試験に向けて	教科書
15	前期定期試験	

(2026年度)

授業要項

科目	人間関係論Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	富山 仁美	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 (中央法規)				
参考書	「はじめてのケアリーダー編」「看護・介護のリーダー編」医歯薬出版株式会社 「身体知と言語」中央法規「介護管理者・リーダーのための人づくり・組織作りマニュアル」ばる出版				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	介護実践におけるマネジメントの基礎を学び、職業人としてどう展開していくのか自分の考えを言語化できる				
留意点	介護現場における組織の在り方を理解し、職責毎の仕事の仕方を学ぶ				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習現場で、チームとしての仕事の仕方や報連相の在り方を学ぶ ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。</p> <p>①介護実践におけるチームマネジメント意義を理解する。</p> <p>②ケア展開するためのチーム取組やケア展開するするためのマネジメントについて理解する。</p> <p>③介護職としてのキャリアデザインが描けるようにすると共に、必要な自己研鑽の必要性を理解する。</p> <p>④介護サービスを支える組織の構造や機能とその役割を理解し、運営管理について考える。</p>				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	シラバスの説明 グループワークの仕方についての講義と演習(フィッシュボーン) 課題:自分が思うリーダー像について原稿用紙に書いて提出	講義 ワークショップ
2	第3章 介護実践におけるチームマネジメント 第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 1 ヒューマンサービスとしての介護サービス 演習3-1	講義 ワークショップ
3	2 介護現場に求められるチームマネジメント	講義
4	3 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 演習3-2	講義 ワークショップ
5	第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント 1 ケアを展開するために必要なチームとその取組	講義
6	2 チームケアを展開するためのマネジメント 演習3-3	講義 ワークショップ
7	3 チームの力を最大化するためのマネジメント 演習3-4	講義 ワークショップ
8	第3章 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 1 介護福祉職のキャリアと求められる実践力	講義
9	2 介護福祉職としてのキャリアデザイン 演習3-5	講義 ワークショップ
10	3 介護福祉職のキャリア支援・開発 演習3-6	講義 ワークショップ
11	4 自己研鑽に必要な姿勢	講義
12	第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント 1 介護サービスを支える組織の構造	講義
13	2 介護サービスを支える組織の機能と役割 演習3-7	講義 ワークショップ
14	3 介護サービスを支える組織の管理 演習3-8 テスト範囲説明 課題:自分が思うリーダー像(講義を終えて)	講義 ワークショップ
15	定期試験	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	社会福祉と社会保障	学科名	介護福祉	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (15 コマ)
教 員	百瀬 さくら子	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	最新 第3版 介護福祉士養成講座2 社会の理解(中央法規)				
参考書					
成績評価	・定期テスト60点以上 ・出席状況 ・授業態度				
評価基準	S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) D(60点以上)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と社会の関係性を体系的に捉える。 ・個人、集団、社会の単位で人間を理解する視点を学ぶ。 ・生活の場としての「地域」という視点から地域共生社会、地域包括ケアシステムを理解する。社会保障の考え方、しくみを理解する。 				
留意点					
授業外に必要な学習内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では、自分の住む地域、自分に関わる社会保障制度などに関心を持つことを目的とし授業を行う。				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ●生活と社会のかかわりと地域における自助、互助、共助、公助を理解する ●社会保証制度の基本的な考え方としくみを理解する ●社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 生活の基本機能	講義
2	ライフスタイルの変化 家族の機能と役割	講義
3	社会・組織の機能と役割	講義
4	地域・地域社会	講義
5	地域社会における生活支援	講義
6	地域福祉の発展	講義
7	地域共生社会	講義
8	地域包括ケア	講義
9	社会保障の基本的な考え方	講義
10	日本の社会保障制度の発達	講義
11	日本の社会保障制度のしくみ	講義
12	現代社会と社会保障制度	講義
13	後期試験	
14	振り返り	講義
15	まとめ	講義

(2026年度)

授 業 要 項

科 目	介護保険と障害者支援	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座2 第2版 社会の理解(中央法規)				
参考書	介護保険改正最新版 障害者総合支援法(厚生労働省資料) 介護福祉士実務者研修テキスト1巻「人間と社会」中央法規				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	高齢者福祉と介護保険制度の成り立ちを理解し、介護現場の運営に関連づけて考えられるようになる 障害者福祉と障害者総合支援法について理解する その他諸制度についても理解し、活用できるようにする				
留意点	介護現場の有り様と関連づけて理解する				
授業外に必要な学習内容	●小テスト前の学習(復讐と予習)				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①高齢者保健福祉の動向を歴史的背景も含め理解する ②障害者保健福祉と障害者総合支援制度の動向と制度の在り方について理解する ③介護実践に関連する諸制度(個人の権利を守る制度・保健医療制度・貧困と生活困窮に関する制度・地域生活支援制度)				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	シラバス説明 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 第1節 高齢者保健福祉の動向	講義
2	第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系	講義
3	第3節 介護保険制度 1～3	講義
4	第3節 介護保険制度 4～5 演習 4-1 演習 4-2	講義 ワークショップ
5	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第1節 障害者保健福祉の動向 第2節 障害者の定義	講義
6	第3節 障害者保健福祉に関する制度	講義
7	第4節 障害者総合支援制度 1～5	講義
8	第4節 障害者総合支援制度 6～9	講義
9	第4節 障害者総合支援制度 演習 5-1 5-2	講義 ワークショップ
10	第6章 介護実践に関連する諸制度 第1節 個人の権利を守る制度	講義
11	第2節 保健医療に関する制度	講義 ワークショップ
12	第3節 貧困と生活困窮に関する制度	講義 ワークショップ
13	第4節 地域生活を支援する制度 演習 6-1 6-2	講義 ワークショップ
14	定期試験	
15	試験返却・回答説明 自分が思うリーダー論(学習してどう変化したか) レポート提出	講義

〈2026年度〉

授業要項

科 目	アクティビティ・ケア (レクリエーション)	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教 員	依田 淑子	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	その都度資料を用意する				
参考書	レクリエーション教本				
成績評価	支援実習1～3の発表内容により評価する				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	レクリエーションの発案と実践				
留意点	現場で応用できるような内容を提供する				
授業外に必要な 学習内容	介護実習で実践状況を見学・参加する				
授業内容	体育指導員としての経験を踏まえ、本科目では現場ですぐに使えるレクリエーションとアイデアを教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	レクリエーションとは？レクリエーションの財を考える	
2	福祉レクリエーションの考え方 季節にあった折紙	ファイル 折紙 文房具
3	季節に合った折紙 アイスブレーキング 1	ファイル 折紙 文房具
4	季節に合った折紙 アイスブレーキング 2	ファイル 折紙 文房具
5	身近な物を使ったレクリエーション 1	ファイル 文房具
6	身近な物を使ったレクリエーション 2	ファイル 文房具
7	身近な物を使ったレクリエーション 3	ファイル 文房具
8	季節を楽しむ飾り制作 1	ファイル 文房具
9	静的レクリエーション	ファイル
10	季節を楽しむ飾り制作 2	ファイル 文房具
11	動的レクリエーション	ファイル
12	レクリエーション支援の為のスケジュールと体操作り	ファイル
13	レクリエーション支援実習 1	
14	レクリエーション支援実習 2	
15	レクリエーション支援実習 3	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	アクティビティケア (音楽療法)	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教 員	室川裕子	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	はじめよう音楽リハビリテーション				
参考書	レジメ使用				
成績評価	筆記試験				
評価基準	音楽が人に与える影響の理解とその有効性を知る。70から80%				
到達目標	授業内容に準ずる				
留意点	学生が自ら声を出し行動し仲間と協力すること				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	音楽療法を学ぶことは音楽を用いて種々の刺激と感動を与えてアクティビティを高めて行く活動となることであり、音楽がアクティビティケアとして心身に刺激を与える方法であることを知り、対象者支援としての在り方を学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	アクティビティの目的とするところ アクティビティケアとは	
2	アクティビティとレクリエーション	
3	コミュニケーションワーク	
4	人と向き合う音楽とは 音楽療法の歴史	
5	音楽とリハビリテーション	
6	音楽療法の方法・目的・働き	
7	音楽とリハビリテーション	
8	高齢者の音楽療法	
9	施設で使える歌詞表、リズム譜作成	
10	グループワーク アクティビティとしてのプログラム	
11	高齢者の音楽 具体的内容	
12	演習	
13	音楽で広がるコミュニケーション	
14	定期試験	
15	まとめ	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	健康論	学科名	介護福祉	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (15 コマ)
教 員	中村 崇	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	その都度プリントを配布する				
参考書					
成績評価	本科目は授業を3分の1以上出席したものがテストを受ける資格を有す。筆記試験の結果で評価する。				
評価基準	100点満点の筆記試験にて60点以下を不可とする。				
到達目標	健康の哲学的概念からその定義を考察し、実践を通じて健康維持向上に寄与できる介護福祉士を目指す。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	理学療法士として病院等での勤務経験を踏まえ、本講座では、全世代の健康を考えてその評価・対策などを考える。特に高齢期の介護予防を自ら学び実践する力を身につける。ソーシャルコミュニティーを体験しながら学び、フレイル対策や介護予防の中心には介護福祉士の力が重要であることを学び実践できるようになる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・健康とは何か？	プリントPP
2	子供の成長と発達の理解・健康教育の現在	プリントPP
3	成長期の健康管理とその関り	プリントPP
4	成人の健康と心と体	プリントPP
5	高齢者の健康と心と体	プリントPP
6	介護予防の重要性と健康管理	プリントPP
7	介護の実践 1 脳トレ・脳のに効果が見込まれるトレーニング実技	実習
8	介護の実践 2 筋トレ・筋力強化の理論と実技	実習
9	介護の実践 3 脂肪トレ・有酸素運動の方法と実技	実習
10	MCIの発見と予防の実践 1	プリントPP
11	MCIの発見と予防の実践 2	実習
12	地域作りの健康支援活動をするために必要な事 1	プリントPP
13	地域作りの健康支援活動をするために必要な事 2	プリントPP
14	試験	
15	まとめ	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	初級障がい者スポーツ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・実技	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	半田秀一・新津真歩	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	障害のある人のスポーツ教本(初級・中級) 2020年改正カリキュラム対応				
参考書	全国障害者スポーツ大会競技規則集				
成績評価	出席状況、授業態度				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	パラスポーツの意義と理念を理解し、ボランティア活動が積極的にできる				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	地域における様々なボランティア活動への参加				
授業内容	理学療法士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①パラスポーツにはどのようなものがあるのか学び、理解を深める ②パラスポーツ指導の意義と理念を理解する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	障がい者スポーツの意義と理念	プリント PP
2	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	プリント PP
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	プリント PP
4	障がい者スポーツ大会の概要	プリント PP
5	安全管理	プリント PP
6	障がいのある人との交流 1	サンアップル
7	障がいのある人との交流 2	プリント PP
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	サンアップル
9	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	プリント PP
10	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 振り返り	プリント PP

〈2026年度〉

授業要項

科 目	介護サービスマナー	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	百瀬 さくら子	領域	人間と社会	実務経験	有
教科書	介護職のための接遇マナー ホスピタリティマナーを身につけよう！ 公益財団法人介護労働安定センター				
参考書					
成績評価	出席状況・講義演習への取り組み 60点以上を合格とする				
評価基準	S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) D(60点以上)				
到達目標	介護福祉士としての接遇マナーの基本を身につける				
留意点	実践できること				
授業外に必要な学習内容	日々の生活や実習現場で活用できるようにする				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ・介護現場での接遇マナーの重要性を理解する ・演習を行い実践力を高める ・良好な人間関係を構築できる力を高める				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 介護現場でのマナーの重要性	講義
2	接遇の5原則について	講義・演習
3	表情・語調	講義・演習
4	態度・身だしなみについて	講義・演習
5	あいさつ	講義・演習
6	言葉づかい・電話の応対	講義・演習
7	来客応対と訪問時のマナー	講義・演習
8	聴き方マナー	講義・演習
9	職場でのマナー	講義・演習
10	確認試験・総評	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	介護の基本 I	学科名	介護福祉	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	4 単位(30 コマ)
教 員	百瀬 さくら子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 第3版 介護福祉士養成講座 介護の基本 I (中央法規)				
参考書					
成績評価	・定期テスト60点以上 ・出席状況 ・授業態度				
評価基準	S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) D(60点以上)				
到達目標	介護福祉の基本理念や倫理を学ぶことで、介護福祉士に求められる専門職としての知識と姿勢を形成する				
留意点					
授業外に必要な学習内容	介護福祉士国家試験過去問題に取り組むことで、出題傾向を知ること				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解する ●介護福祉士の専門性と倫理を理解し、尊厳を支える介護、自立を支える介護について理解する ●ICFの視点に基づくアセスメントからエンパワメントを理解し、自立支援と介護予防について考える 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 介護の成り立ち①	講義
2	介護の成り立ち②	講義
3	介護福祉の歴史①	講義
4	介護福祉の歴史②	講義
5	介護福祉の基本理念①	講義
6	介護福祉の基本理念②	講義
7	社会福祉士及び介護福祉士法①	講義
8	社会福祉士及び介護福祉士法②	講義
9	介護福祉士の活動の場と役割①	講義
10	介護福祉士の活動の場と役割②	講義
11	介護福祉士に求められる役割とその養成①	講義
12	介護福祉士に求められる役割とその養成②	講義
13	介護福祉士を支える団体①	講義
14	介護福祉士を支える団体②	講義
15	前期試験	

日 程	内 容	使用機材等
16	介護福祉士の倫理①	講義
17	介護福祉士の倫理②	講義
18	介護福祉士の倫理③	講義
19	介護福祉における自立支援①	講義
20	介護福祉における自立支援②	講義
21	ICFの考え方①	講義
22	ICFの考え方②	講義
23	ICFの考え方③	講義
24	自立支援とリハビリテーション①	講義
25	自立支援とリハビリテーション②	講義
26	自立支援と介護予防①	講義
27	自立支援と介護予防②	講義
28	後期試験	
29	振り返り	講義
30	まとめ	講義

〈2026年度〉

授業要項

科 目	介護の基本Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(18コマ)
教 員	中居 時子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ第3版 (中央法規)				
参考書	介護福祉士養成テキスト「介護の基本Ⅱ」(建帛社)				
成績評価	定期試験60点以上 提出物・レポート 出席状況				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	①介護福祉の基本理念や、地域を基盤とした生活の継続性と介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する。②介護福祉の専門職としての能力と態度を身に付ける。				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	実習を通して他職種の機能と役割の理解を深め、どのように連携しているか学ぶ。				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や、障害がある人への理解を深める。介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染対策、介護従事者の健康管理について理解する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業説明 私たちの生活の理解	教科書
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし (時代背景の理解)	教科書
3	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	教科書
4	生活を支えるフォーマルサービス	教科書
5	生活を支えるフォーマルサービス	教科書
6	生活を支えるインフォーマルサービス・地域連携	教科書
7	介護における安全の確保	教科書
8	リスクマネジメントとは何か	教科書
9	生活の場の安全管理	教科書
10	感染症対策	教科書
11	多職種連携・協働の必要性	教科書
12	保健・医療・福祉職の役割と機能 1	教科書
13	保健・医療・福祉職の役割と機能 2	教科書
14	健康管理の意義と目的	教科書
15	こころの健康管理	教科書
16	身体の健康管理	教科書
17	前期試験	
18	試験の返却と解説 労働環境の整備	教科書

〈2026年度〉

授業要項

科 目	セルフケアマネジメント	学科名	介護福祉	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (15 コマ)
教 員	中村 崇	領域	介護	実務経験	有
教科書	毎回プリントを配布する				
参考書					
成績評価	本科目は授業を3分の1以上出席したものがテストを受ける資格を有す。筆記試験の結果で評価する。				
評価基準	100点満点の筆記試験にて60点以下を不可とする。				
到達目標	介護福祉士として健康管理・業務における心身のケアを行う方法を学び、実践出来る力をつける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	実習の場合は、動きやすい服装で行うこと。				
授業内容	理学療法士として病院等での勤務経験を踏まえ、基本的な医学知識を駆使して、現場でのリスク管理やより効果ある身体の動きを学び、自分の体と心を守りながら最大の効果で介護を行える知識と技術を身につける。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 医療福祉における介護技術の重要性	プリントPP
2	体の健康とはー成長と老化現象を学ぶ	プリントPP
3	心の成長と老化現象を学ぶ	プリントPP
4	利用者の介護者とのリスク管理の重要性	プリントPP
5	学ぶべき3つの基礎医学解剖とは	プリントPP
6	学ぶべき3つの基礎医学生理学とは	プリントPP
7	学ぶべき3つの基礎医学運動学とは	プリントPP
8	介護者の予防すべき整形外科疾患ー腰・膝	プリントPP
9	健康姿勢の重要性とその評価	実習室
10	運動連鎖から見た介護技術	実習室
11	バイオメカニズムを利用した介護とリハビリ	実習室
12	ヨガや癒しの運動指導	実習室
13	ハンドケアとパートナーストレッチ	実習室
14	試験	
15	まとめと未来の介護福祉士とは	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	介護予防と生活リハビリ	学科名	介護福祉	履修年次	2 年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	吉本 由美子	領域	介護	実務経験	有
教科書	指導者のための介護予防ガイド 地域で取り組む健康増進				
参考書	プリントを配布します(ファイルを用意してください)				
成績評価	◎定期試験60点以上 ◎全講義・演習を終了し前・後期の試験に合格すること ◎講義を全出席すること				
評価基準	最終日に行われる60分の終了試験に合格すること 体力測定を正しく行えること				
到達目標	体力測定や基本チェックリストに基づき、様々なプログラムを作成、実演できる				
留意点	運動器具を使用する際には、使用上の注意点を厳守し、危険な取り扱いをしないこと				
授業外に必要な学習内容	◎毎回の授業の前に、必ず次行う章を一読してくること ◎実習の際は、動きやすく運動が出来る服装で参加すること ◎実習終了後、毎回振り返りを行うこと				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では高齢者一人ひとりの身体機能を十分に理解し、筋力向上トレーニング、フレイル予防、口腔機能向上、認知機能向上などの指導を行い、高齢者が自立した生活習慣を確立し、いつまでも健康で心豊かなその人らしい生活を送れるよう支援できるように学ぶ				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	介護予防概論	指定テキスト
2	介護予防のためのアセスメント	指定テキスト
3	フレイル概論	指定テキスト
4	体力測定 実習・評価 ①	実習室・運動着
5	体力測定 実習・評価 ②	実習室・運動着
6	リスクマネジメント	指定テキスト
7	転倒予防概論	指定テキスト
8	運動指導実践実習 (ストレッチ)	実習室・運動着
9	運動指導実践実習 (筋力向上)	実習室・運動着
10	運動指導プログラム作成方法 ①	
11	運動指導プログラム作成方法 ②	
12	介護予防実践のための準備とリスク管理	指定テキスト
13	運動指導プログラム実習と評価 ①	実習室・運動着
14	運動指導プログラム実習と評価 ②	実習室・運動着
15	尿失禁予防概論	指定テキスト
16	介護予防のアプローチ方法	指定テキスト
17	前期試験対策	

日 程	内 容	使用機材等
18	前期試験	
19	前期試験返却	
20	認知症予防について	指定テキスト
21	認知症予防プログラム	指定テキスト
22	口腔機能向上について	指定テキスト
23	口腔機能向上プログラム	指定テキスト
24	低栄養予防について	指定テキスト
25	介護予防プログラム作成と実習 ①	実習室・運動着
26	介護予防プログラム作成と実習 ①	実習室・運動着
27	介護予防プログラム作成と実習 ①	実習室・運動着
28	後期試験対策	
29	後期試験	
30	後期試験返却	

〈2026年度〉

授業要項

科目	コミュニケーション技術	学科名	介護福祉	履修年次	1年生
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	中島智子	領域	介護	実務経験	有
教科書	コミュニケーション技術(中央法規出版)				
参考書					
成績評価	定期試験・授業中の演習への取り組み姿勢・提出物・小テスト・出席状況				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の定期試験では60%以上の得点を基準とする。 ・単元ごと的小テストは70%以上の得点を基準とする。 ・レポートの内容や演習プリントへの記述により理解できているか確認する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者と利用者に関わる人たちの関係調整能力を習得する。 ・さまざまなコミュニケーション障害の内容とコミュニケーション障害がある利用者への対応の仕方を理解する。 ・チームのコミュニケーションの重要性を理解する。 				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのグループ討議やロールプレイなどに積極的に参加し、発言すること。 				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を自宅で復習すること。 ・施設実習でのコミュニケーションは積極的に行うこと。 				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ・日常生活の様々な場面で、利用者やその家族との信頼関係形成のためのコミュニケーション技術を学ぶ。 ・利用者の状況、状態、障害の有無に応じたコミュニケーション技術の実践を学ぶ。 ・多職種連携の必要性と留意点を学ぶ。 ・実習の際のコミュニケーションの内容を振り返り、課題を検討する。 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第1章介護におけるコミュニケーションの基本 第1節介護におけるコミュニケーションの意義と目的	
2	第2節介護におけるコミュニケーションの対象	
3	第3節援助関係とコミュニケーション	
4	第2章コミュニケーションの基本技術 第1節傾聴・受容・共感・コミュニケーションにおける距離	
5	第2節言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	
6	第3節目的別のコミュニケーション技術	
7	プロセスレコードの書き方	プリント
8	第4節集団におけるコミュニケーション技術	
9	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節コミュニケーション障害への対応の基本	
10	第1節コミュニケーション障害への対応の基本	プリント
11	第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	プリント
12	第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	プリント
13	第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	プリント
14	前期定期試験	
15	第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	プリント

日 程	内 容	使用機材等
16	第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	プリント
17	第4章 家族とのコミュニケーション 第1節 家族との関係づくり	
18	第2節 家族への助言・指導・調整	
19	第3節 家族関係と介護ストレスへの対応	
20	第5章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーションとは	
21	第2節 報告・連絡・相談の技術	プリント
22	第3節 記録の技術	プリント
23	第3節 記録の技術	プリント
24	第4節 会議・議事進行・説明の技術	
25	第4節 会議・議事進行・説明の技術	
26	第5節 事例検討に関する技術	
27	第6節 情報の活用と管理のための技術	
28	模擬会議	
29	プレゼンテーションの実際	
30	後期定期試験	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	生活支援技術Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	3単位(50コマ)
教 員	中居 時子	領域	介護	実務経験	有
教科書	「最新・第3版 介護福祉養成講座 生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版) 「生活支援のための調理実習」(建帛社)				
参考書					
成績評価	定期試験、出席状況、レポート				
評価基準	定期試験60点以上学校評価基準、学則で定める出席状況				
到達目標	人の動きと活動行為、食生活・衣類・寝具の衛生管理等家庭経営・管理の意義等基本的知識及び技術を学び、高齢者や障害のある人の日常生活を支援することができる。				
留意点	・生活の意義を理解し高齢者や障害者の生活に関心を持って学ぶ。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。 ①生活支援の理解、生活支援と介護過程、生活支援とチームアプローチ ②住環境の整備、住まいの機能と役割、快適な室内環境、住環境における多職種連携 ③自立に向けた移動の介護 移動における福祉用具の活用、良肢位、褥瘡とその対応 ④福祉用具の意義と活用、介護保険と福祉用具 ⑤自立に向けた家事の介護 家庭経営 ⑥応急手当の知識と技術 ⑦災害時における生活支援				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス、授業の特徴と学ぶ姿勢 (身だしなみ) 第1章 第1節 生活支援の基本的な考え方 (P2~13) 第2節 生活支援と介護過程(P14~29)	教科書 P2~37
2	第3節 生活支援とチームアプローチ (P30~37) 第2章 居住環境の整備(P40~83) 第1節 住まいの役割と機能 第2節 生活空間	教科書 (P2~37、40~83)
3	第2章 第3節 快適な室内環境(P56~64) 第4節 安全に暮らすための生活環境(P65~83) 第5節 住環境の整備における他職種との連携(P65~83)	教科書P40~83
4	”	教科書P86~101
5	第3章 自立に向けた移動の介護 (P86~201) ※実技グループ編成する 第1節 自立した移動とは 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 第3節 移動の介護における他職種との連携	教科書P86~201
6	第3章 自立に向けた移動の介護 (P84~194) ④体位変換の介助の実際 (P102~119) (1) 上方移動 (2) 水平移動 (3) 仰臥位から側臥位 (横を向く) の介助	教科書P86~201
7	第3章 自立に向けた移動の介護 (P84~194) ④体位変換の介助の実際 (P102~119) (1) 上方移動 (2) 水平移動 (3) 仰臥位から側臥位 (横を向く) の介助	教科書P86~201
8	④体位変換の介助の実際 (P102~119) (3) 仰臥位から側臥位 (横を向く) の介助 (4) 起き上がりから端座位への介助(119~126)	教科書P86~201
9	3 安楽な姿勢・体位を保持する介助(127~130) ③安楽な姿勢・体位を保持する介助の実際(131~137)	教科書P86~201
10	4 歩行の介助(138~ 5 車いす (移乗・移動) の介助 (138~170)	教科書P86~201
11	4 歩行の介助(138~ 5 車いす (移乗・移動) の介助 (138~170) (4) 車いすでの移動介助 (平地、坂道の移動、段差を上げる、エレベーターでの介助)	教科書P86~201
12	4 歩行の介助(138~ 5 車いす (移乗・移動) の介助 (138~170) (4) 車いすでの移動介助 (平地、坂道の移動、段差を上げる、エレベーターでの介助)	教科書P86~201

日 程	内 容	使用機材等
13	(3)福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助(167~170) 移動用リフトを使用した介助：ベッドから車いす(171~180) 6 移動・移乗のための道具・用具 (188~194)	教科書P86~201
14	第3章 自立に向けた移動の介護 (P84~194) ④体位変換の介助の実際 (P102~119) (1)上方移動 (2)水平移動 (3)仰臥位から側臥位(横を向く)の介助	教科書P86~201
15	④体位変換の介助の実際 (P102~119) (3)仰臥位から側臥位(横を向く)の介助 (4)起き上がりから端座位への介助(119~126)	教科書P86~201
16	④体位変換の介助の実際 (P102~119) (3)仰臥位から側臥位(横を向く)の介助 (4)起き上がりから端座位への介助(119~126)	教科書P86~201
	” ②移乗介助全般にわたり介助が必要は利用者の介助	ベッド、車いす
17	4 歩行の介助(138~ 5 車いす(移乗・移動)の介助 (138~170)	教科書P86~201
18	4 歩行の介助(138~ 5 車いす(移乗・移動)の介助 (138~170)	教科書P86~201
19	④体位変換の介助の実際 (P102~119) (3)仰臥位から側臥位(横を向く)の介助 (4)起き上がりから端座位への介助(119~126)	教科書P86~201
20	4 歩行の介助(138~ 5 車いす(移乗・移動)の介助 (138~170)	教科書P86~201
21	(3)福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助(167~170) 移動用リフトを使用した介助：ベッドから車いす(171~180) 6 移動・移乗のための道具・用具 (188~194)	教科書P86~201
22	(3)福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助(167~170) 移動用リフトを使用した介助：ベッドから車いす(171~180) 6 移動・移乗のための道具・用具 (188~194)	教科書P86~201
23	(3)福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助(167~170) 移動用リフトを使用した介助：ベッドから車いす(171~180) 6 移動・移乗のための道具・用具 (188~194)	教科書P86~201
24	第3章 自立に向けた移動の介護 (P84~194) ※移動の介護確認試験	教科書P86~201
25	第4章 福祉用具の意義 (P204~228) 第1節 生活支援における福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶ為の視点	教科書 (P204~228)
26	第4章 福祉用具の意義 第1節 生活支援における福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶ為の視点	教科書 (P204~228)
27	第4章 福祉用具の意義 第1節 生活支援における福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶ為の視点	教科書 (P204~228)
28	第5章 自立に向けた家事の介護 (P230~274) 第2節 自立に向けた家事の介護 5 栄養素・主な働き 副読本	教科書 (P230~274) 副読本
29	第5章 自立に向けた家事の介護 第2節 高齢者の食事に関する身体的変化、消化器官	教科書 (P230~274) 副読本
30	第5章 自立に向けた家事の介護 第2節 高齢者の食事に関する身体的変化、消化器官	教科書 (P230~274) 副読本
31	前期定期試験に向けて	
32	第5章 自立に向けた家事の介護 介護現場での食生活の支援と調理、食品の保存方法と衛生管理	教科書 (P230~274) 副読本
33	第5章 自立に向けた家事の介護 介護現場での食生活の支援と調理、食品の保存方法と衛生管理	教科書 (P230~274) 副読本

日 程	内 容	使用機材等
34	前期定期試験	
35	第5章 自立に向けた家事の介護 献立の立て方、身支度、手洗い 食材の切り方、自助具、調理実習に向けて	教科書 (P230～274) 副読本
36	第5章 自立に向けた家事の介護 振り返り 学びの確認	教科書 (P230～274) 副読本
37	調理実習に向けて	教科書 副読本
38	第5章 自立に向けた家事の介護 調理実習	教科書、副読本 エプロン、三角巾、手拭き
39	第5章 自立に向けた家事の介護 調理実習 課題レポート提出	教科書、副読本 エプロン、三角巾、手拭き
40	第5章 自立に向けた家事の介護 2洗濯の介護 3掃除・ごみ捨ての介護 P233～	教科書 (230～273)
41	第5章 自立に向けた家事の介護 5衣類・寝具の衛生管理の介護 P241～262	教科書 (230～273)
42	第5章 自立に向けた家事の介護 2洗濯の介護 3掃除・ごみ捨ての介護 P233～	教科書 (230～273)
43	後期定期試験に向けて	教科書
44	後期定期試験	教科書
45	第5章 自立に向けた家事の介護 第1節 自立した家事とは (P220～226 6 買い物 7 家庭経営、家計の管理P248～254	教科書 (230～273)
46	第5章 自立に向けた家事の介護 第1節 自立した家事とは (P220～226 6 買い物 7 家庭経営、家計の管理P248～254	教科書 (230～273)
47	振り返り	
48	第6章 応急手当の知識と技術 第1節 応急手当について 第2節 応急手当の実際	教科書 (276～287)
49	第7章 災害時における生活支援	教科書 (P290～323)
50	第7章 災害時における生活支援	教科書 (P290～323)

〈2026年度〉

授業要項

科 目	生活支援技術Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1 年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	5 単位 (75 コマ)
教 員	百瀬 さくら子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 第3版 介護福祉士養成講座 生活支援技術(中央法規)				
参考書					
成績評価	・定期テスト(筆記・実技) ・出席状況 ・演習態度 ・身だしなみ ・提出物				
評価基準	S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) D(60点以上)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の自立に向けた介護のありかたについて理解できる。 ・科学的根拠に基づいた生活支援技術に関する知識を身につけ、理解できる。 				
留意点	演習時は、身だしなみを整えること。				
授業外に必要な学習内容	実技演習時間は限られているため、各自復習を行い、技術の向上に努めること				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて安全で安楽に支援できるように、知識や技術を習得する。 ●科学的根拠に基づく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においても活かす力を身に付ける 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 介護実習室の使い方	テキスト 実習着
2	ベッドメイキング①	テキスト 実習着
3	ベッドメイキング②	テキスト 実習着
4	ベッドメイキング③	テキスト 実習着
5	ベッドメイキング④	テキスト 実習着
6	ベッドメイキング確認テスト	テキスト 実習着
7	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
8	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
9	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
10	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
11	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
12	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
13	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
14	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
15	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着

日 程	内 容	使用機材等
16	自立に向けた身支度の介護	テキスト 実習着
17	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
18	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
19	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
20	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
21	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
22	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
23	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
24	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
25	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
26	自立に向けた食事の介護	テキスト 実習着
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
29	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
30	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
31	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
32	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
33	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
34	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
35	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
36	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
37	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
38	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
39	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト 実習着
40	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
41	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着

日 程	内 容	使用機材等
42	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
43	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
44	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
45	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
46	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
47	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
48	前期試験（筆記）	
49	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
50	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
51	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
52	自立に向けた排泄の介護	テキスト 実習着
53	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
54	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
55	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
56	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
57	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
58	休息・睡眠の介護	テキスト 実習着
59	人生の最終段階における介護	テキスト 実習着
60	人生の最終段階における介護	テキスト 実習着
61	人生の最終段階における介護	テキスト 実習着
62	人生の最終段階における介護	テキスト 実習着
63	人生の最終段階における介護	テキスト 実習着
64	自立に向けた身支度の介護（復習）	テキスト 実習着
65	自立に向けた身支度の介護（復習）	テキスト 実習着
66	自立に向けた排泄の介護（復習）	テキスト 実習着
67	自立に向けた排泄の介護（復習）	テキスト 実習着

日 程	内 容	使用機材等
68	実技試験に向けて	テキスト 実習着
69	実技試験に向けて	テキスト 実習着
70	実技試験に向けて	テキスト 実習着
71	後期試験（筆記）	
72	実技試験	テキスト 実習着
73	実技試験	テキスト 実習着
74	振り返り	テキスト 実習着
75	まとめ	テキスト 実習着

〈2026年度〉

授業要項

科目	生活支援技術Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	中居 時子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新(改訂版) 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版株式会社)				
参考書	心と体の仕組み、障害の理解、認知症の理解				
成績評価	定期試験、出席状況				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による。学則に定める出席基準とする。				
到達目標	障害の特性と介護を必要とする人の状態を把握し、その人らしく生活できるように支援する力を身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。</p> <p>1、利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは</p> <p>2、障害に応じた生活支援技術Ⅰ(肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、重複障害、内部障害、重症障害)</p> <p>3、障害に応じた生活支援技術Ⅱ(知的障害、精神障害、高次機能障害、発達障害、難病(ALS、パーキンソン病、悪性関節リウマチ、筋ジストロフィー)</p>				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護	教科書 (P2~30)
2	第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護	教科書
3	第2節 視覚障害に応じた介護 ①視覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 食事の支援 移動の支援の演習	教科書 (P31~46)
4	〃	教科書
5	第3節 聴覚・言語障害に応じた介護 ①聴覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 ⑤言語障害の理解	教科書 (P46~60)
6	〃	
7	第4節 重複<盲ろう>に応じた介護	教科書
8	第5節 内部障害 心臓機能障害に応じた介護	教科書 (P75~89)
9	〃	教科書
10	第6節 内部障害 呼吸器能障害に応じた介護	教科書 (P91~105)
11	〃	教科書
12	第7節 内部障害 腎臓能障害に応じた介護	教科書 (P108~119)
13	〃	教科書

日 程	内 容	使用機材等
14	第8節 内部障害 膀胱・直腸能障害に応じた介護	教科書 (P121～132)
15	〃	教科書
16	第9節 内部障害 小腸能障害に応じた介護	教科書 (P134～143)
17	〃	
18	第10節 内部障害HIVによる免疫機能障害に応じた介護	教科書(P146～155)
19	〃	教科書
20	定期試験に向けて	教科書
21	定期試験	学生証、筆記用具
22	第11節 内部障害 肝臓機能障害に応じた介護	教科書 (P158～167)
23	〃	教科書
24	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ 第1節 知的障害に応じた介護 第2節 精神障害に応じた介護	教科書 (P190～196)
25	第2節 精神障害に応じた介護	教科書 (P198～216)
26	第5節 【 難病 】ALSに応じた介護	教科書 (P249～259)
27	第5節 【 難病 】パーキンソン病に応じた介護	教科書 (P262～274)
28	第5節 【 難病 】悪性関節リウマチに応じた介護	教科書(P277～289)
29	振り返り 定期試験に向けて	教科書
30	定期試験	学生証、筆記用具

〈2026年度〉

授業要項

科目	介護過程 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	中居 時子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新(第2版) 介護福祉士養成講座 介護過程 (中央法規出版株式会社)				
参考書	介護の基本 I、II (中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) 生活支援技術 I				
成績評価	定期試験、出席状況、ワークシートの提出物				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による				
到達目標	介護過程を行う意義とその過程を理解し、ICFモデルの活用をして介護過程の展開ができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	、				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下の内容を教授する。 講義とグループ演習 第1章 介護過程とは 第2章 介護過程の理解				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第1章 第1節 介護過程とは 介護過程を学習するにあたって 第2節 生活支援における介護過程の必要性	教科書 資料
2	” 利用者像の変化 介護における「目標」の特徴	教科書 資料
3	第1章 第1節 介護過程とは 第2節 介護過程における事例検討・事例研修の必要性	教科書 (P2~32)
4	” 演習 1-1、1-2	教科書 演習用シート
5	第1章 第2節 介護過程における事例検討・事例研修の 必要性	教科書
6	高齢者が生きてきた時代を知る	教科書 演習
7	高齢者が生きてきた時代を知る	演習
8	” 発表	演習発表
9	第2章 第1節~第4節	教科書 (P34~87)
10	第2章 第1節~第4節	教科書 演習
11	第2章 第1節~第4節	教科書
12	第2章 第1節~第4節 演習	教科書 演習シート
13	第2章 第1節~第4節 演習	教科書 演習シート
14	定期試験に向けて振り返り	テキスト
15	前期定期試験	演習

〈2026年度〉

授業要項

科目	介護過程Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
教員	中居 時子	教授法	講義・演習	単位数コマ	3単位(23コマ)
教科書	最新(改訂版)介護福祉士養成講座 介護過程(中央法規出版株式会社)				
参考書	介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) 事例で読み解く介護過程(中央法規)				
成績評価	定期試験、出席状況、ワークシートの提出物				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による				
到達目標	利用者の状態や状況に応じた介護過程の実際を個別の事例を通して理解し、事例の情報をICFのシートに落とし込み介護過程の展開ができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 講義と個人及びグループワーク 介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規)、心と体のしくみ、発達と老化の理解、障害の理解などの授業で学んだことを統合して、アセスメントすることができる。介護計画の立案ができる。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第3章 第1節 介護過程の実践的展開 事例1 グループホームにおける認知症高齢者の事例	教科書(P90~142) 演習
2	〃	教科書(P90~142) 演習
3	事例3 在宅における脳血管疾患のある女性の事例	教科書(P90~142) 演習
4	〃	教科書(P90~142) 演習
5	事例4 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例	教科書(P90~142) 演習
6	〃	教科書(P90~142) 演習
7	事例2 脳性麻痺のある男性の事例	教科書(P90~142) 演習
8	〃	教科書 各自の情報収集シート PC
9	第Ⅱ期後期施設実習から 各自の対象ご利用者のアセスメントを行う	教科書 各自の情報収集シート PC
10	〃	教科書 各自の情報収集シート PC
11	〃	教科書 各自の情報収集シート PC
12	介護計画の立案 具体的な支援内容と方法、頻度	教科書 各自の情報収集シート PC
13	〃	教科書 各自の情報収集シート PC
14	〃	教科書 各自の情報収集シート PC

日 程	内 容	使用機材等
15	〃 発表準備 原稿作成	教科書 各自の情報収集シート PC
16	〃 発表準備 原稿作成	教科書 各自の情報収集シート PC
17	発表会	教科書 各自の情報収集シート PC
18	発表会	教科書 各自の情報収集シート PC
19	定期試験に向けて（振り返り問題）	教科書 振り返り問題
20	定期試験に向けて（振り返り問題）	教科書 振り返り問題
21	定期試験	
22	試験返却 解説	
23	介護過程の学びの総括 ワーク	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	介護過程Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(23コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規)				
参考書	介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メヂカルフレンド社・建帛社)介護技術講座(日介協)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	根拠に基づいた介護を提供するための「介護過程」を発展させ、実践的に展開する				
留意点	個別ケアの意義と実践の関連性を理解する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。</p> <p>①多様な事例からアセスメント～評価までの思考過程を疑似体験する。 ②事例を丁寧に読み込むことによって思考過程のトレーニングを行い、目標設定ができるようにする。 ③利用者の状態とプラン設定の関連性を理解し、個別ケアの実践が展開できるようにする。 ④事例を通じて、プラン設定と介護技術提供の実践ができる。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1年生での介護過程の展開について総まとめ	講義
2	第4章 介護過程とケアマネジメント 1 ケアマネジメントの全体像	講義
3	2 ケアプランと個別援助計画の関係性	講義
4	3 チームとして介護過程を展開する意義 4 ケアカンファレンスの意義 演習4-1	講義・演習
5	第2節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 1 チームアプローチの意義	講義
6	2 チームアプローチの実際	講義
7	実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク①	講義 ワークショップ
8	グループワークを通してわかったことを発表	講義 ワークショップ
9	介護過程と介護実践との関係性	講義
10	事例から各種介護実践について考える(1)	講義
11	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習①	講義 ワークショップ
12	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習②	講義 ワークショップ
13	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③	講義 ワークショップ
14	課題発表	講義 ワークショップ
15	課題発表	講義 ワークショップ

日 程	内 容	使用機材等
16	事例から各種介護実践について考える（１）	講義
17	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習①	講義 ワークショップ
18	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習②	講義 ワークショップ
19	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③	講義 ワークショップ
20	課題発表	講義 ワークショップ
21	課題発表	講義 ワークショップ
22	定期試験	
23	まとめ	講義・演習

〈2026年度〉

授業要項

科目	介護過程Ⅳ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規)				
参考書	介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メチカルフレンド社・建帛社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加え総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立するとともに、実践的思考とスキルの修得を目指す				
留意点	実践力を身につける				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下ことを教授する。 ①多様な事例を基に、課題を見つける力を身につける。 ②介護現場におけるサービス担当者会議の展開方法を理解する。 ③介護施設における苦情処理について演習を交えて対処法を考える。 ④より具体的内容により、介護過程の展開の重要性を理解する				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第5章 利用者の生活と介護過程の展開 第1節 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 1 介護福祉士の仕事の魅力 2 事例について	講義
2	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ①	講義・演習
3	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ②	講義・演習
4	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ③	講義・演習
5	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ④	講義・演習
6	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑤	講義・演習
7	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑥	講義・演習
8	ケアカンファレンス演習 ①	講義・演習
9	サービス担当者会議演習準備	講義・演習
10	サービス担当者会議演習	講義・演習
11	ひも解きシートについて講義 ●事例 1	講義・演習
12	ひも解きシート ●事例 2	講義・演習
13	定期試験	
14	試験返却 苦情処理とは(事例説明)	講義・演習
15	苦情処理ロールプレイ	講義・演習

〈2026年度〉

授 業 要 項

	介護総合演習 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位 (30コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新第2班 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習(中央法規)				
参考書	介護福祉用語辞典 介護の基本 I・II				
成績評価	授業態度と出席状況 提出物 実習評価 ボランティア活動状況 以上から総合的に				
評価基準	S～D判定 実習評価、ボランティア活動、3分の2以上の出席率				
到達目標	①介護実習の意義と目的について理解する。 ②介護実習施設の特性やその中での介護サービスの違いについて理解する。 ③利用者の生活のあり方について知る。				
留意点	事前準備をしっかりと行い、目的意識をもって実習に臨むことができるようにする				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●他の科目と連動した学習ができるようにする ●身の回りにある施設に興味を持てるようにする 				
授業内容	看護師、介護福祉士として介護施設や病院等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。 ①介護実習施設の特性について事前学習しておく。 ②事前オリエンテーションでの接遇についても学んでおく。 ③介護実習終了後は振り返りを行い、次の実習に活かせるようにする。 ④学んだ介護技術を事前に練習し、不安のなくに臨めるように準備する。 ⑤多職種連携・協働における介護福祉士の役割りについて理解する。				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	個人の目標 クラス目標 (BS法・KJ法) グループワークの進め方	講義・演習
2	第1 介護総合演習で何を学ぶか 第1節 介護総合演習の位置づけ	講義
3	第2 節総合演習の目的 介護実習の指導 他科目での学びの統合化 多職種連携協働の重要性	講義
4	第2 章 介護実習の意義と目的 なぜ介護実習が必要なのか 介護実習の流れ	講義
5	本校の実習の年間計画について理解する 各実習での目的と到達目標 時間と内容	講義
6	実習 I での学び 実習 II での学び 第3 節 実習前後の学びのいかし方	講義
7	第3 章 第1 節 実習前の学習の内容と方法 2 節 実習前後の学習の内容と方法	講義
8	第3 節 実習後の学習の内容と方法	講義
9	第4 章 実習先の特徴、実習先での学び (順序の入れ替わりあり) 施設 (特別養護老人ホーム、介護保険施設、介護医療院、障害者支援施設) ①	講義
10	第4 章 実習先の特徴、実習先での学び (順序の入れ替わりあり) 施設 (特別養護老人ホーム、介護保険施設、介護医療院、障害者支援施設) ②	講義
11	学生個人票の作成	講義
12	実習に向けてのオリエンテーションの準備	講義 ワークショップ
13	実習記録の書き方 (目標等について) 提出物の確認	講義
14	実習の流れの確認	講義
15	実習終了後のお礼状の作成について	講義 ワークショップ

日 程	内 容	使用機材等
16	居宅介護（訪問介護、通所介護、通所リハ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、軽費老人ホーム等々）①	講義
17	居宅介護（訪問介護、通所介護、通所リハ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、軽費老人ホーム等々）②	講義
18	居宅介護（訪問介護、通所介護、通所リハ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、軽費老人ホーム等々）③	講義
19	学生個人票の作成	講義 ワークショップ
20	実習に向けてのオリエンテーションの準備	講義
21	実習記録の書き方（目標等について） 提出物の確認	講義
22	実習の流れの確認	講義
23	実習終了後のお礼状の作成について	講義
24	後期実習について（介護過程：情報収集）	講義
25	学生個人票の作成	講義 ワークショップ
26	オリエンテーション	講義
27	フェースシートの記入 情報収集について	講義 ワークショップ
28	実習終了後のお礼状の作成について	講義 ワークショップ
29	後期実習の振り返り	講義 ワークショップ
30	総括 2年次の実習に向けての期待	講義 ワークショップ

(2026年度)

授業要項

科目	介護総合演習Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数	2単位(30コマ)
教員	中居 時子	領域	介護	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版 (中央法規)				
参考書	介護福祉用語辞典、よくわかる介護記録の書き方				
成績評価	授業態度及び出席状況 提出物 実習評価 ボランティア活動状況 等総合的に評価				
評価基準	2/3以上出席していること。年3回以上のボランティア活動。実習評価基準を超えていること。				
到達目標	① 実習に臨む基本的な姿勢を身につけ、明るく元気に積極的な実習ができる。 ② 利用者の気持ちに寄り添い、利用者の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ③ 介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことができるようになる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中のアルバイトは禁止 ・実習前オリエンテーションに出向く。 ・実習に向けて体調管理を行う(実習1週間前から生ものを食さないように心がけ、等での外出は控える) ・後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける。 ・研究発表会に向けての文章作成 (PCの関係上、授業外や自宅での作業もありえます) 				
授業内容	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。 ①介護実習に向けての心構え、準備を行う。 ②自己の実習目標を持ち実習に臨み、介護の知識と技術を統合し支援できる。また課題を明確に。 ③実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる。 ④介護過程の展開を行うことが出来る。 ⑤介護の知識と技術を統合し支援できる。 ⑥介護観を育み確立できる。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 介護実習概要の説明 第6章 実習Ⅱの展開 第1節、第2節	教科書
2	第7章 介護総合演習の実際 第1節 総合演習における知識と技術の統合 第2節 介護総合演習における介護観の形成	教科書
3	個別援助計画作成に向けて	教科書
4	関係書類作成	実習ファイル
5	関係書類作成	実習ファイル スーツ
6	実習関連書類の配布及び確認 実習に向けての心得	oyobi
7	実習関連書類の配布 最終確認 実習に向けての心得	実習ファイル 教科書
8	実習先施設オリエンテーション(スーツ着用)	実習ファイル
9	実習先施設オリエンテーション(スーツ着用)	実習ファイル
10	第7章 介護総合演習の実際 第1節 総合演習における知識と技術の統合 第2節 介護総合演習における介護観の形成	
11	実習関連書類等の最終確認	
12	第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 実習ファイル一式持参	実習ファイル
13	第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 実習ファイル一式持参	実習ファイル
14	お礼状を書く 提出物提出 実習成果物等の提出	実習ファイル

日 程	内 容	使用機材等
15	前期実習の振り返り 実習目標達成の評価を各自行う 実習記録を読み振り返る	実習ファイル
16	前期施設実習の総括 援助計画作成 (PC入力)	実習ファイル
17	国家試験受験に向けて 援助計画作成 (PC入力)	実習ファイル 国家試験手引き
18	実習関係書類作成	教科書 採便容器 実習ファイル
19	実習関係書類作成 第Ⅱ期後期実習直前の準備・確認	教科書 実習ファイル
20	実習先施設オリエンテーション (スーツ着用)	教科書 実習ファイル
21	実習先施設オリエンテーション (スーツ着用)	教科書 実習ファイル
22	第Ⅱ期後期実習直前の準備、書類確認 他	実習ファイル スーツ
23	第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 実習ファイル一式持参	
24	第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 実習ファイル一式持参	
25	お礼状の作成 実習成果物提出	実習ファイル スーツ
26	後期実習の振り返り 実習目標達成の評価を各自行う 実習記録を読み振り返る	教科書
27	前期施設実習の総括 (2年間介護福祉士の勉強、実習を通して培った介護 観をまとめる。 援助計画作成 (PC入力)	実習ファイル
28	前期施設実習の総括 (2年間介護福祉士の勉強、実習を通して培った介護 観をまとめる。 援助計画作成 (PC入力)	実習ファイル
29	前期施設実習の総括 (2年間介護福祉士の勉強、実習を通して培った介護 観をまとめる。 援助計画作成 (PC入力)	実習ファイル
30	第39回介護福祉士国家試験合格祈願 (善行寺、激励) 試験日：令和9年1月30日 (日)	
31	事例研究に向けて (PC入力)	実習ファイル
32	事例研究に向けて (PC入力)	実習ファイル

〈2026年度〉

授業要項

	発達と老化の理解	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4単位(30コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新第2班 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 医療的ケア(中央法規・メヂカルフレンド社) 成人看護学(医学書院) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) おはよう21(中央法規) ふれあいケア(全社協)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	人間が誕生し、成長発達する過程と老化していく変化の過程を理解し、適切な介護の提供ができるようにする。				
留意点	からだとところの変化の関連性について理解する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習現場で高齢者と触れ合うことで理解を深める ●「生活支援(高齢者支援)」「心と体のしくみ」と関連して理解する ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では以下のことを教授する。 ①人間の成長と発達についての理論を理解する。 ②老化による心身の変化を理解する。 ③加齢変化が日常生活に及ぼす影響を理解する。 ④加齢とともに起こりやすい疾病について理解する				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識 第1節 成長・発達の考え方	講義
2	第2節 成長・発達の原則・法則	講義
3	第3節 成長・発達に影響する要因	講義
4	第2章 人間の発達段階と発達課題 第1節 発達理論	講義
5	第2節 発達段階と発達課題	講義
6	第3節 身体的機能の成長と発達	講義
7	第4節 心理的機能の発達	講義
8	第5節 社会的機能の発達①	講義
9	第5節 社会的機能の発達②演習 1～3	講義
10	第3章 老年期の特徴と発達課題 第1節 老年期の定義	講義
11	第2節 老化とは 疑似体験	講義 ワークショップ
12	第3節 老年期の発達課題	講義
13	第4節 老年期をめぐる今日的課題	講義
14	定期試験	
15	テスト返却 第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活 第1節 老化に伴う身体的な変化と生活への影響①	講義

日 程	内 容	使用機材等
16	第1節 老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 演習 4-1 答え合わせ	講義
17	第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
18	第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
19	第5章 高齢者と健康 第1節 健康長寿に向けての健康	講義
20	第2節 高齢者の症状・疾患の特徴	講義
21	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意事項 1 骨格系、筋系 2 脳・神経系	講義
22	3 感覚器系 4 循環器系	講義
23	5 呼吸器系 6 消化器系	講義
24	7 腎・泌尿器系 8 内分泌・代謝系	講義
25	9 歯・口腔疾患 10 悪性新生物	講義
26	11 感染症 12 精神疾患	講義
27	13その他 演習 5-3 答え合わせ	講義
28	第4節 保健医療職との連携 試験のポイント説明	講義 ワークショップ
29	定期試験	
30	テスト返し・解説 演習 5-4	講義 ワークショップ

(2026年度)

授業要項

科目	認知症の理解 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	中澤 純一	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規				
参考書	ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイツかもがわ				
成績評価	試験65% レポート15% 授業参加度20%				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	認知症の原因疾患及び症状について、実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び実践に繋げる力を身につける				
留意事項	講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味をもってみましょう				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習現場で高齢者と触れ合うことで理解を深める ●「生活支援(高齢者支援)」「心と体のしくみ」と関連して理解する ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業概要	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人にいかに関与しているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方での向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけでなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 認知症の基礎的理解/認知症とは何か (認知症の人の姿を考える/認知症の定義と診断基準)	テキスト講義・映像(DVD)
2	認知症の基礎的理解/認知症とは何か/脳のしくみ (脳の構造から見た機能と症状の関係・認知症の病理/認知症とそれ以外の間違いやすい病気と症状)	テキスト講義
3	認知症の基礎的理解/認知症の人の心理 (不安と喪失感/うつ病)	テキスト講義・演習
4	認知症の人の心理 (まとめ)	テキスト講義・配付資料
5	認知症の症状・診断・治療・予防/中核症状の理解 (記憶障害/見当識障害)	テキスト講義・配付資料
6	認知症の症状・診断・治療・予防/中核症状の理解 (高次脳機能障害/神経症状)	テキスト・映像・配付資料
7	認知症の症状・診断・治療・予防/生活障害の理解 (生活障害とADLの課題)	テキスト・映像(PC映像)
8	認知症の症状・診断・治療・予防/BPSDの理解 (BPSDの要因と背景について【その1】)	テキスト講義
9	認知症の症状・診断・治療・予防/BPSDの理解 (BPSDの要因と背景について【その2】)	テキスト講義・演習
10	認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の診断と重症度 (診断と評価尺度)	テキスト講義
11	認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の原因疾患と症状・生活障害 (各認知症の疾患別理解【その1】)	テキスト講義
12	認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の原因疾患と症状・生活障害 (各認知症の疾患別理解【その2】)	テキスト講義
13	認知症の基礎疾患・生活障害を映像にて学ぶ	DVD映像演習
14	第2章までのまとめ	講義・映像(PC映像)
15	定期試験	

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	認知症の理解Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	中澤 純一	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規				
参考書	ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイトかもがわ				
成績評価	試験65% レポート15% 授業参加度20%				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	認知症の原因疾患及び症状について、実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び実践に繋げる力を身につける。				
留意事項	講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味をもってみましょう				
授業概要	介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人にいかに関与しているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方でのQOLの向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。 認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけではなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。 認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	認知症の医学的理解のまとめと振り返り	配付資料
2	認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の治療薬と予防 (様々な治療薬とその意味/予防の考え方その背景とその意味)	テキスト講義
3	障がいをかかえて生きる事への支援/認知症ケアの理念と視点 (歴史的背景と現時のケアの視点・理念と実践)	テキスト講義・演習
4	障がいをかかえて生きる事への支援/認知症ケアの理念と視点 (理念と実践/適切な関わりとその意味)	テキスト講義・演習
5	障がいをかかえて生きる事への支援/認知症当事者の視点 (認知症の人の思いとそれに即したケア)	映像演習 (DVD)
6	認知症ケアの実際/パーソンセンタード・ケア (見つめるべき認知症ケアの基本)	テキスト講義
7	認知症ケアの実際/アセスメントツール (各アセスメントツールとその視点)	テキスト講義
8	認知症ケアの実際/コミュニケーション (障がいごとに考えるコミュニケーションの基本的理解)	テキスト講義・演習
9	認知症ケアの実際/認知症の人へのケア (各生活に合わせたケアの視点【その1】)	テキスト講義
10	認知症ケアの実際/認知症の人へのケア (各生活に合わせたケアの視点【その2】)	テキスト講義・演習
11	認知症ケアの実際/認知症の人の終末期医療と介護・環境づくり (終末期医療と介護の関わり/環境づくりのポイント)	テキスト講義
12	介護者支援/家族支援・介護福祉職への支援/ケアモデルと働く環境 (介護者家族の心理的身体的負担とその支援)	テキスト講義
13	認知症に関する映像研修	DVD映像確認
14	認知症の人の地域生活支援/制度・サービス・機関・地域作り (多職種連携を含めた支援体制)	テキスト講義・演習
15	定期試験	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	障害の理解 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新 第2班 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 (中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社)心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①障害について基礎的理解を深める ②障害の医学的・心理的側面を理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念 第1節 障害の概論 1 障害の捉え方 2 ICIDHからICFへの変遷	講義 ワークショップ
2	接遇の基本について	講義・演習
3	3 障害者数の概数 4 障害者の定義(障害者基本法・総合支援法)	講義・演習
4	第2節 障害者福祉の基本理念 1 ノーマライゼーション	講義・演習
5	2 リハビリテーション 3 インクルージョン 4 エンパワーメント	講義
6	5 ストレngthス 6 国際障害者年	講義
7	7 障害者権利条約 8 アドボガシー	講義・演習
8	第3節 障害者福祉に関する制度 1 障害者総合福祉法	講義
9	2 障害者差別解消法 3 障害者虐待防止法	講義・演習
10	4 障害者の就労支援 5 成年後見制度 演習1-1 演習1-2	講義 ワークショップ
11	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I 第1節 障害のある人の心理	講義
12	第2節 肢体不自由(運動機能障害)	講義 ワークショップ
13	第3節 視覚障害	講義 ワークショップ
14	第4節 聴覚・言語障害	講義 ワークショップ
15	定期試験	

〈2026年度〉

授業要項

科目	障害の理解Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位 (15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新 第2班 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 (中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社)心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援を理解する。 ②障害のある人の生活を地域で支える為のサポート体制や他職種連携・協働の在り方を理解する。 ③障害のある人を支える家族の課題を理解し、支援内容について考える				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第2章 第5節 重複障害	講義 ワークショップ
2	第6節 内部障害 心臓・呼吸器・腎臓	講義
3	第6節 内部障害 腎臓 膀胱	講義
4	第6節 内部障害 肝機能	講義
5	第7節 重症心身障害	講義
6	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 第1節 知的障害	講義
7	第2節 精神障害	講義
8	第3節 高次脳機能障害	講義
9	第4節 発達障害	講義
10	第5節 難病	講義
11	第4章 連携と協働 第1節 地域のサポート体制/第2節 チームアプローチ	講義
12	第5節 難病 その2	講義
13	第4章 連携と協働 第1節 地域のサポート体制 第2節 チームアプローチ	講義
14	第5章 家族への支援 第1節 家族への支援とは 第2節 家族力評価と家族負担の軽減	講義
15	定期試験	講義

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	心と体のしくみ1	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新第2班 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	人間のからだとこころのつながりを知り、健康の有り様を理解する				
留意点	図解しながら、各臓器等の位置と関係性をよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復習と予習)				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①健康とは何かを考える。 ②解剖学・生理学を通して心のメカニズムを理解する。 ③感情・学習・記憶・思考・適応のしくみを理解する。 ④からだのしくみと役割を理解する。 ⑤薬についての知識を身につける				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	序章「健康」とは何か 1 健康の定義 2 「健康」づくり 3 健康観 4 人はなぜ病気になるのか	講義
2	第1章 こころのしくみを理解する 第1節 人間の欲求とは 1 基本的欲求 2 社会的欲求 3 自己実現とは	講義
3	第2節 自己実現と尊厳 1 自己概念に影響する要因 2 自立への意欲と自己概念 3 自己実現と尊厳、生きがい 4 国際的な取り組み	講義
4	第3節 こころのしくみの基礎 1 こころとは何か 2 脳のしくみ	講義 ワークショップ
5	3 認知のしくみ 4 学習・記憶・思考のしくみ 5 感情・情動のしくみ	講義
6	6 意欲・動機づけのしくみ 7 適応のしくみ	講義
7	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 1 からだのしくみ 1 細胞・遺伝 2 身体各部の名称 3 脳・神経	講義 ワークショップ
8	4 感覚器 5 内臓の名称	講義 ワークショップ
9	6 呼吸器 7 循環器	講義 ワークショップ
10	8 消化器 9 泌尿器	講義
11	10 骨・筋肉 11 骨・関節の働き	講義
12	12 筋肉の働き 13 神経系の働き	講義
13	14 生殖器・内分泌 15 血液・体液・リンパ	講義
14	2 関連する役割、および薬の知識	講義
15	定期試験	

〈2026年度〉

授業要項

科目	心と体のしくみⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新 第2班 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	日常生活支援における心身の状態を理解する ・移動、身支度におけるころとからだのしくみを理解する ・介護過程を展開するための情報収集やアセスメントと関連付けることが出来る				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における実技を通して学ぶ ●小テスト前の学習(復讐と予習)				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①移動・身支度におけるメカニズムを理解する。 ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する。 ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する。 ④医療職との連携ポイントを理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第3章 移動に関連したころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ 1なぜ移動するのか 2基本的な姿勢とは	講義 ワークショップ
2	3 ボディメカニクス	講義 ワークショップ
3	4 移動に関連したころのしくみ 5 移動に関連したからだのしくみ ①	講義
4	5 移動に関連したからだのしくみ ② 演習3-1 安定した姿勢	講義 ワークショップ
5	第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 1 精神機能の低下が移動に及ぼす影響 2 身体機能の低下が移動に及ぼす影響	講義 ワークショップ
6	第3節 変化の気づくためのポイント 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例	講義
7	第4章 身支度に関連したしくみ 第1節 身支度のしくみ ① 顔を構成する骨と筋肉と部位	講義 ワークショップ
8	身支度のしくみ② 眼・耳・鼻・爪の構造	講義 ワークショップ
9	身支度のしくみ③ 毛髪・口腔・歯・舌・口臭・洗顔	講義
10	第2節心身の機能低下が身支度に及ぼす影響 ①精神機能の低下が身支度に及ぼす影響	講義 ワークショップ
11	②身体機能の低下が身支度に及ぼす影響	講義
12	演習	講義 ワークショップ
13	第3節変化の気づきと対応 ①身支度での観察ポイント1	講義
14	①身支度での観察ポイント 2 演習	講義
15	定期試験	

(2026年度)

授業要項

科目	心と体のしくみⅢ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	食事・入浴・清潔保持に関連した利用者の状態変化とそれに伴う生活課題を論理的に理解する				
留意点	食事や入浴が心と体に及ぼす影響をこれまでの知識を織り交ぜながら確認する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授します。 ①食事の重要性を理解する。 ②食事が心と体に影響する内容を理解する。 ③入浴の重要性を理解する。 ④入浴が心と体に影響する内容を理解する				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第5章 食事に関連したしくみ 第1節 食事のしくみ 1 なぜ食事をするのか 2 食事に関連した心のしくみ	講義 ワークショップ
2	3 食事に関連したからだのしくみ 演習5-1	講義 ワークショップ
3	第2節 心身機能の低下が食事に及ぼす影響 1 精神機能の低下が食事に及ぼす影響 2 身体的機能の低下が食事に及ぼす影響	講義 ワークショップ
4	第3節 変化の気づきと対応 1 食事での観察ポイント 2 食事での医療職との連携のポイント	講義 ワークショップ
5	第6章 入浴・清潔保持に関連したしくみ第1章 入浴・清潔保持のしくみ 1 なぜ入浴・清潔保持を行うのか 入浴の歴史と基礎知識 2 入浴・清潔保持に関連した心のしくみ	講義 ワークショップ
6	3 入浴・清潔保持に関連した体のしくみ 小テスト	講義 ワークショップ
7	第2節 心身機能の低下が入浴・清潔保持への影響 1 精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響(皮膚機能)	講義
8	2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 視覚機能、運動機能、高血圧や動脈硬化、心疾患・呼吸器疾患、その他	講義
9	第3節 変化の気づきと対応 1 入浴が身体に及ぼす負担 2 入浴・清潔保持での観察ポイント(温度変化まで)	講義 ワークショップ
10	2入浴・清潔保持での観察ポイント(心身の状態～) 3入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント 演習6-4	講義
11	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節 「死」のとりえ方 ①	講義 ワークショップ
12	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節 「死」のとりえ方 ②	講義 ワークショップ
13	総振り返り	講義
14	定期試験	
15	テスト返却・回答	講義

〈2026年度〉

授業要項

科 目	心と体のしくみⅣ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	排泄・睡眠・ターミナルケアについて心と体のしくみとの関連性について理解し、根拠に基づいたケアができるようになる				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習)				
授業内容	看護師、介護福祉士として病院や介護施設等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①排泄・睡眠におけるメカニズムを理解する。 ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する。 ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する。 ④医療職との連携ポイントを知る。 ⑤人生の最終段階のケアについて理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第7章 排泄に関連したしくみ 第1節 排泄のしくみ 1 なぜ排泄するのか 2・3排泄に関連した心と体のしくみ(尿)	講義
2	3排泄に関連した体のしくみ 排便～人工膀胱・肛門 ケアの実際(DVD) 演習7-1、7-2	講義 ワークショップ
3	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1精神・判断力の影響 2身体機能の低下の影響 演習7-3、7-4	講義 ワークショップ
4	第3節 変化の気づきと医療職との連携 1 観察のポイント 2 医療職との連携ポイント	講義
5	第8章 休息・睡眠に関連したしくみ 第1節 睡眠のしくみ 1なぜ睡眠するのか 2睡眠のしくみ	講義
6	3睡眠の質を高める 演習8-1、8-2	講義 ワークショップ
7	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 1 心身機能低下の影響 2 睡眠障害 3睡眠不足が及ぼす影響	講義 ワークショップ
8	第3節 変化の気づくためのポイント 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例	講義 ワークショップ
9	第9章 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 第2節 「死」に対する心の理解 1 心の変化 2 受容する段階、支援、家族の負担軽減	講義 ワークショップ
10	第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 1 身体機能の特徴 2 臨終気の対応	講義
11	3 死後の体の変化 4 死後の連絡	講義
12	第4節 医療職との連携 呼吸困難～緩和ケア 試験前振り返り	講義
13	振り返り	講義
14	定期試験	
15	試験返却と解答 終末期ケアについてのまとめ	講義 ワークショップ

〈2026年度〉

授業要項

科目	医療的ケア I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教員	島山 仁美	領域	医療的ケア	実務経験	有
教科書	最新 第2班 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規)				
参考書	こころとからだのしくみ(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	個人の尊厳を守り安全な療養生活が維持できるよう、他職種との連携と実践の重要性を学ぶ				
留意点	介護職が医療的ケアを実施することになった社会的背景を理解し、重要な責務を知る				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	<p>看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。</p> <p>①個人の尊厳と自立について理解し「医療倫理」と「介護の倫理」の類似点と相違点を学ぶ。 ②保健医療制度とチーム医療について理解する。 ③安全な医療的ケアを実施するためのリスクを理解し、セーフティケアについて考える。 ④清潔・不潔を理解し感染予防意識を身につける。 ⑤バイタルチェックと急変時の対応を理解する。 ⑥救急蘇生法を理解する。</p>				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第1章 医療的ケア実施の基礎知識 介護福祉士が医学知識が必要なわけ	講義 ワークシヨップ
2	第1節 ①医療的ケアとは	講義
3	②医行為について(医療倫理について)	講義・演習
4	③喀痰吸引制度(社会福祉士及び介護福祉士法改定)	講義
5	④医療的ケアと喀痰吸引等の背景	講義
6	⑤その他の制度	講義
7	第2節 安全な療養生活 ①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	講義・演習
8	演習の実際	講義・演習
9	第3節 清潔保持と感染予防 ①感染予防 ②介護職の感染予防	講義
10	第3節 清潔保持と感染予防 ③療養環境の清潔、消毒方法 ④消毒と滅菌	講義
11	第4節 健康状態の把握 バイタルチェック、応急手当	講義・演習
12	リスク管理 (リスクマネジメント)	講義・演習
13	第2章 喀痰吸引(基礎的知識) 第1節 高齢者の喀痰吸引概論 ①呼吸のしくみ ②喀痰吸引とは P98	講義
14	喀痰吸引の実際 DVDで確認 必要物品確認	講義
15	第3章 経管栄養(基礎的知識) 第1節 概論 ①消化器系のしくみと症状	講義

日 程	内 容	使用機材等
16	第1節 ②経管栄養とは ③注入の知識と留意事項	講義
17	経管栄養の種類としくみ DVD確認 必要物品確認	講義
18	経管栄養により生じる危険 急変・事故発生時の対応と再発防止	講義・演習
19	定期試験	
20	テスト返却・解説 振り返り（喀痰吸引・経管栄養）	講義

(2026年度)

授業要項

科目	医療的ケアⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教員	畠山 仁美	領域	医療的ケア	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	介護職が行う喀痰吸引等の医療的ケアの実施における社会的背景と合法化された経緯を理解し、個人の尊厳を基軸におき、安全な療養生活が維持できるように、知識・技術を身につける				
留意点	県の喀痰吸引研修用試験適応可能な模擬試験も実施				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●実技室での積極的演習 ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	<p>看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①喀痰吸引・経管栄養の基本的な留意事項と技術を学ぶ(鼻腔・口腔・気管カニューレ、胃ろう・経鼻) ②医療的ケアにおける手順及び配慮すべきケアの実践を学ぶ。 ③喀痰吸引・経管栄養における記録とリスク管理と報告書の書き方を学ぶ。 ④救急蘇生について理解する。 ⑤評価に向けた実技演習を行い、手順の中にあるリスクへの配慮を理解する。 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	喀痰吸引について(医療的ケアⅠの振り返り) 喀痰吸引概論:呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態	講義
2	喀痰吸引について 人工呼吸器使用者の喀痰吸引 気管カニューレ内部の吸引と留意事項	講義
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●子どもの喀痰吸引(対象者、留意点) ●利用者・家族への対応	講義 ワークショップ
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 痰吸引による危機管理(危険予知と対応)	講義 ワークショップ
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●喀痰吸引時の備品の準備・環境整備(DVD)	講義・演習
6	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔内喀痰吸引	講義・演習
7	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●鼻腔内喀痰吸引	講義・演習
8	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●気管カニューレ内喀痰吸引	講義・演習
9	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔・鼻腔・気管カニューレ内喀痰吸引の記録作成・提出	講義 ワークショップ
10	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養とは P165~174	講義
11	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●子供の経管栄養について ●栄養に関する感染予防	講義
12	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●家族への対応 ●安全管理と対応	講義 ワークショップ
13	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養での器具と管理方法	講義 ワークショップ
14	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●必要物品準備と環境整備	講義 ワークショップ
15	DVDによる経管栄養確認	講義・演習

日 程	内 容	使用機材等
16	定期試験	
17	テスト返却 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻経管栄養	講義・演習
18	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●胃瘻経管栄養	講義・演習
19	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻or胃ろう経管栄養	講義・演習
20	喀痰吸引・経管栄養演習	講義・演習

〈2026年度〉

授業要項

科 目	医療的ケアⅢ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	演習	単位数コマ	1単位(30コマ)
教 員	畠山仁美	領域	医療的ケア	実務経験	有
教科書	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規)				
参考書	こころとからだの理解(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社)				
成績評価	5手技を各5回試験し、5回目がクリアできること。できない場合はできるまで試験を続ける				
評価基準	5手技を各5回以上実践(採点項目すべてを合格すること)				
到達目標	倫理性を持ち、理論に基づいた医療的行為が実践できること				
留意点	評価基準を同一のものとするための打合せを徹底する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●積極的に計画的な実践練習 				
授業内容	看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本講座では次のことを教授する。 ①安全に配慮した物品の準備と実践ができる。 ②手順に沿った実技ができる。 ③適切な報告と記録が書ける。 ④環境整備ができる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1～3	喀痰吸引(口腔内) 1	評価
4～6	喀痰吸引(口腔内) 2	評価
7～9	喀痰吸引(鼻腔内) 1	評価
10～12	喀痰吸引(鼻腔内) 2	評価
13～15	喀痰吸引(気管カニューレ内) 1	評価
16～18	喀痰吸引(気管カニューレ内) 2	評価
19～21	経管栄養(胃ろう) 1	評価
22～24	経管栄養(胃ろう) 2	評価
25～27	経管栄養(経鼻) 1	評価
28～30	経管栄養(経鼻) 2	評価

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	課題研究 (文章表現法)	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	中居 時子	領域	その他	実務経験	無
教科書	特になし 配布プリントを参考に進めていきます				
参考書	「よくわかる介護記録の書き方」(メヂカルフレンド社)「よくある場面から学ぶ介護記録」(中央法規) 文章検 公式テキスト(日本漢字能力検定協会)				
成績評価	出席状況・受講態度・提出物・レポートによる総合評価				
評価基準	2/3以上出席していること。課題の提出期限が守られていること。				
到達目標	記録の意義や目的を理解した上で、適切な記録を書く力を身につける。また、ほかの専門職が書いた記録から必要な情報を読み取り、記録を利用者の生活の質の向上に活かすことができる力をつける。				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	日常生活や実習で活かせるように努力すること				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現におけるルールなど、基本的な部分を具体的に学ぶ。 日常生活で必要な文章力を身につける。 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業計画説明 原稿用紙の書き方、自己紹介文章作成	プリント
2	記録のルール	プリント
3	文章の基礎 ① (語彙)	プリント
4	文章の基礎 ② (文法)	プリント
5	文章の基礎 ③ (観察力、考える力)	プリント
6	文章の書き方の基本①	プリント
7	文章の書き方の基本②	プリント
8	実習記録の書き方	プリント
9	実習記録の書き方	プリント
10	実習記録の書き方	プリント